東海道五拾参次

橋　本　たねひろ

２８、見附ー天竜川図　　遠江国・静岡県磐田市

袋井から５.９ｋｍで高台の見附宿に到着、下ると天竜川にぶつかります。日本有数の急流で知られ水深もあるので、ここは渡し舟で渡ります。

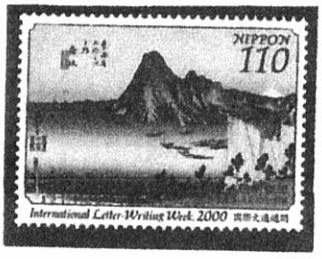
川の中間の中洲を挟んで見附側の流れを小天竜、次の濱松側を大天竜と呼び、渡し舟は中洲で乗り換える決まりのため、渡し賃を２度払う必要がありました。絵は小天竜を渡った舟と船頭が客待ちしており、ひとりが持つ竿の長いことで川の深さが分かります。大天竜を渡る舟をこちらから行く客が待っている、遠くに濱松の風景がかすんで見えます。

２９、濱松ー冬枯ノ図　　遠江国・静岡県浜松市中区

子守の少女が落ち葉でたき火をする寒い朝、暖を採る鵜籠かきは冬でも裸同然の姿、道中合羽の旅人が煙管の火を借りに近寄る、大きい松と立ち上る煙が画面を二分しています。左に寒々とした枯れ木群、右に松林と濱松城が見えます。濱松の松は吹き抜ける風の音から「ざざんざの松」と呼ばれ、謡曲に使われています。

見附を出てここを通り濱松宿まで１６.５ｋｍ、天竜川を渡るため、ここで泊まる旅人も多かったようです。

３０、舞坂（まいさか）ー今切（いまぎれ）真景　　遠江国・静岡県浜松市西区



濱松から舞坂まで１０.９ｋｍ、舞坂から荒井へは、浜名湖の渡し舟に乗ることになります。白い帆、漁り船、穏やかな湖面、奥に村櫛半島が突き出して小さく白い富士山が見えています。

今切とは、外海とつながった浜名湖の流れを緩やかにするために数万本の杭を打ち込んだ場所のことで、左手前に並んでいます。

３１、荒井（新居）ー渡舟ノ図　　遠江国・静岡県湖西市

舞坂から荒井へはすべて浜名湖の渡し舟で、湖上５.９ｋｍです。大名行列の舟渡しの絵で、手前の舟は帆を上げる途中、やれやれとばかり足軽・中間は大あくび、毛槍・吹き流しを立て、笹竜胆紋の幔幕の舟は大名本人が座乗しています。遠景が荒井宿で右端に関所が見え、舟着場は関所の敷地内です。この関所は日本で唯一現存し、国指定特別史跡です。俗謡に「トピも舞坂 天気も静か 名のみ荒井の 舟渡し」と謡われています。